

大賞

(宮城県気仙沼市)

菅原 文子

「あなたへ」

第2回 KYOTO KAKIMOTO 恋文大賞

手紙(文章)部門 <一般の部>

ひぐらしがうるさい位鳴いています
きょうは八月二十一日 日曜日
お盆を過ぎて街は静かになりました
あなたが突然いなくなって五ヶ月と十日
もう五ヶ月 まだ五ヶ月ととても複雑です
あの日忘れようにも忘れられない
東日本大震災が起きました
あなたは迎えに行った私と手を取り合った瞬間
凄じい勢いで波にのまれ私の目の前から消えました
いつ体何処へいつてしまいましたか
あの時から私の心はコンクリート 詰めになり
山々が新緑に覆われても桜が咲いても
何も感じる事が出来ず声を上げて
泣くことすらも出来ずにおります
そして息子達も私も語り尽くせぬほどの
様々の事があつてこん日に至ります
突然いなくなったあなたに伝えたい事
聞いて貰いたい事が山ほどあつて
心の整理もつかないけれど手紙を書く事にしました
お店のこと心配していますか
お店はたくさんの方々の応援をいただいて
四月二十三日仮店舗をオープンしました
十三坪の土地に三坪のプレハブ テントをひと張り
混乱の中で息子達はほんとによく頑張りました
そのお店の真向かいには一軒家も借りる事が出来
家族五人で暮らしています
全国の皆さんからはたくさんのご支援をいただいて
その上素晴らしい方々とも
出会うことが出来ました

又私が書いたお酒の(負けねえぞ気仙沼)のラベルが
とても好評で多くの方々に買って頂いています
ある方に「これは旦那様が書かせてくれたのよ」と
言われました
私もきつとそうだと思っています
何も言えずに別れてしまったから
ありがとうと伝えたくて切なくて悲しくて
どうしようもないけれど
三十八年間いつ緒にいてくれて仲良くしてくれて
ほんとにありがとう
守ってくれて支えてくれてありがとう
感謝しています
これからはあなたが必死で守ってきた
お店ののれんは私が息子達と守ります
大丈夫です あなたはきつと何処かで
私達のこと見守ってくれているのでしょ
季節の巡りは早く間もなくすず風が
吹いて秋がやってきます
願わくは寒くなる前に雪の季節が
来る前にお帰り下さい
何んとしても帰ってきて下さい
家族みんなで待つています
私はいつものように お店で待つています
只々ひたすら
あなたのお帰り待つています

平成二十三年八月二十一日
菅原 文子
菅原 豊和様へ